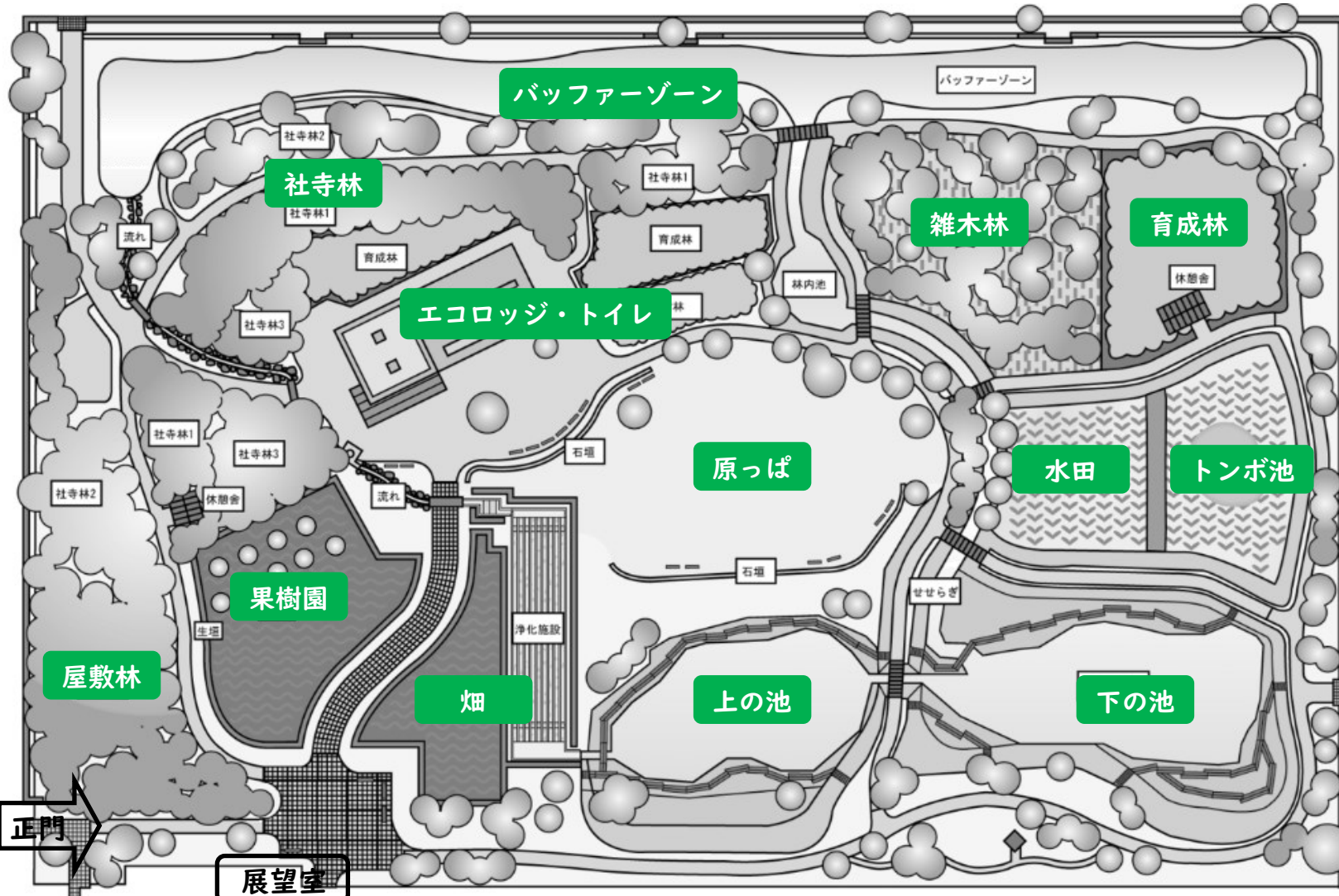


生態園マップ～2021秋編～

- 季節のできごと
- ・社寺林や育成林にはたくさんの種類の樹木があり、いろいろなドングリが落ちています。
 - ・蝉時雨から虫時雨へ。キリギリスや、コオロギ、マツムシなど合唱が始まっています。
 - ・原っぱや道沿いは樹木より少し早く、草紅葉が楽しめます。



ドングリ



ドングリとは、ブナ科の樹木に
なる果実の総称です。実の一部
または全体を殻斗と呼ばれる、お
椀のようなものに覆われている
のが特徴です。一番外側の堅い
皮は果皮で、渋皮のなかに種子
があります。ドングリは種そのも
のではなく、果肉のない果実な
のです。春に開花受粉し、その年
の秋に実をつける1年成と、翌年
秋に実をつける2年成などがあ
ります。ドングリがなる代表的な
樹木は、

シラカシ (常緑樹: 1年成)

スダシイ (常緑樹: 2年成)

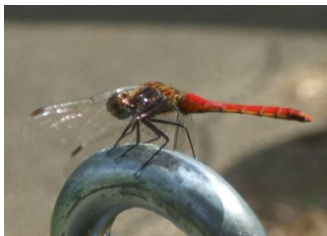
クヌギ (落葉樹: 2年成)

コナラ (落葉樹: 1年成)

などです。

せいいたいえん あき みの あき しょくぶつ かじつ とり い もの ちそう みみ す おと き
生態園の秋は、“実りの秋”でもあります。植物の果実は、鳥や生き物たちのご馳走にもなります。また、耳を澄ますとイロイロな音が聞
こえます。虫の鳴き声や、鳥のさえずり、草花の葉が触れ合う音など、自然の音色が醸し出す雰囲気癒されてみませんか。

アキアカネ



からだ う か むぎ
アキアカネの体は、羽化したときは麦わらのよ
いろ ど こ い
うな色をしています。30度を超える場所では生き
なつ あいだ やま ひしょ あき からだ
られないため、夏の間は山へ避暑。秋になり体
あか へいち かえ
が赤くなってから、平地に帰ってきます。「アカ
とくてい からだ あか
トンボ」は、特定のトンボではなく、体が赤く
すべ さ そくしょう
なるトンボ全てを指す俗称です。

ショウリョウバッタ



なな うえ とが どうぶ とくちょう
斜め上に尖った頭部が特徴のバッタです。メス
やく やく ばいちか からだ おお
(約8cm)はオス(約4cm)の倍近く体が大きいで
と とき はね うご
す。ショウリョウバッタは飛んでいる時に翅が動
おと おと
くことで音がでます。その音からチキチキバッタ
きゅうぼんごろ がつちゅうじゅん
ともいわれています。旧盆頃(8月中旬)から
み
見られることからショウリョウ(精霊)バッタと
なづ
名付けられました。

モズ(百舌鳥)



あき ふか
「キィーキィーキチキチキチ」秋が深まるとモズ
すんど ちようせんてき かんだか な こえ き
の鋭く挑戦的な甲高い鳴き声が聞こえてきま
あらす あき お
す。モズのなわばり争いです。秋の終わりには
あらす お わ ふゆ むか
争いも終わり、モズは1羽きりで冬を迎えます。
たかな しちじゅうごにち たかな はじ
「モズの高啼き七十五日」モズの高鳴きを初めて
き にちめ しも お のうさぎよう
聞いてから75日目に霜が降りるともいわれ農作業
めやす ちいき
の目安にしていた地域もあったそうです。



5月頃



10月頃

ちゅうごくげんさん たか らくよう
カラタチ 中国原産で、高さ3mほどになる落葉
ていぼく がつ は てんかい まえ かお しる はな
低木。4~5月、葉が展開する前に香りのある白い花
さ はな はな あいだ ひろ
を咲かせます。花びらと花びらの間が広くあいてい
かわい はな えだ ふと すんど とげ つ
る、可愛い花です。枝には、太くて鋭い刺が付い
なつ みどりいろ かじつ がつごろ
ています。夏には緑色の果実ができ、10月頃には
きいろ じゆく ちよっけい きゅうけい かにく かお
黄色に熟します。直径3~5cmの球形で、果肉は香
にが しゅし おお しょくよう ふ む
りがよいのですが、苦くて種子が多く、食用には不向
は しょくそう
きです。葉はアゲハチョウの食草になります。



いけ いっかく ぐんせい
ガマ トンボ池の一角にガマが群生していま
ぶぶん ほ
す。フランクフルトのような部分は“ガマの穂”と
よ あき じゆく しろ わたげ
呼ばれています。秋に熟すとはじけて、白い綿毛
も しゅし かぜ ひさん すいめん お
を持つ種子が風によって飛散、水面に落ちると
はつが
発芽します。

いなば しろうさぎ しんわ ほ
『因幡の白兔』の神話にもでてくるガマの穂。ガ
かぶん かんそう ほおう よ
マの花粉を乾燥させたものは「穂黄」と呼ばれ、
しょうやく しけつ りにょう つか
生薬として止血や利尿に使われています。

